



ー選手と同じ扱いを受けています。

世界大会に出場する人たちの毛刈りは、とんでもないレベルなのですが、こういう大会を日本でも開催することが、日本人の毛刈りの技術を高めることになりますし、そのことによって毛刈りで羊を傷つけない、羊を大切に扱うということにもなるのです。

今年も大会は開催されたのですが、5月16日に北海道でも緊急事態宣言が発令されたので、残念ながら大会は中止になりました。それでも、用意された羊の毛は刈らなければならぬので、競技は行いました。その結果、非公式なのですがノビス(初級)クラスで長谷川君が準優勝。優勝したのは、茶路めん羊牧場で実習生として働いている青沼頌平君です。私はジュニア(中級)クラスで進優勝でした。

「ふるさと納税のお礼の品に思いました。」

「ムートン」がふるさと納税のお礼の品に

昨年12月にふるさと納税のお礼の品として、羊まるごと研究所の「ムートン」が加わりました。16品と数量限定のため、わずか一ヶ月で受け付けが終了となりました。

ムートンを受け取った方々からは「とても質がいい」と高い評価を受けています。

酒井さんのおかげで生きていみると、誰かのおかげで生きています。自分がやらなければならぬことだと分かりました。

酒井

「五十にして天命を知る」

これまで酒井さんの毛刈りしか見たことがなかったので、いろいろな人の毛刈りが見れてとても勉強になりました。と同時に、酒井さんの毛刈りの技術の高さを知り、酒井さんに近づくことが、自分がやらなければならぬことだと分かりました。



酒井さんの羊肉は、2008年の洞爺湖サミットのメインディッシュを飾るなど、一流シェフから高い評価を受けています。また、酒井さんは2020年11月10日、NHKのテレビ番組「プロフェッショナル～仕事の流儀～」に出演。その名は、全国に広く知れわたることになりました。

に考えるけれど、長谷川君はそういう感じではなくて『自分の力で何とかしたい、自分は何のためにここにいるのか』ということが明確にあり、それを自分の言葉できちんと話すことができるんです。

長谷川

以前、神奈川県で塾の講師をしていましたことがあります。

が、その頃はすごく食生活が乱れていて、体調も良くなかったんですね。それで、自分の食生活を見つめ直して、自分で育てた野菜を食べて暮らせたらいいなと思って北海道へ来ました。将来は羊を飼いながら野菜も育てて、そういう農的な暮らしできれば理想です。二年間、ここで研修させていただき、就農場所を決めたいと考えています。

酒井

長谷川君が白糠町で就農し

てくれたら、それはやっぱりうれしいんですけど、それを決めるのは大切なことですから、よく考えて決めてほしいですね。

どこに住んでいてもその町の良さや魅力はあると思うけれど、結局のところ一番の魅力は、そこで暮らしている人たちの魅力だと思

大石君は、毛刈りの世界大会に日本代表として何度も出場経験がある方です。羊の毛刈り大会は、世界ではスポーツとして捉えられています。オリンピック種目の候補にもなるような、厳密なルールがあり、世界大会に出場するような一流の毛刈り職人は、サインを求められたりするスポーツのスタ



これたなって思つたんです。自分が一生懸命に頑張つてやつてきても、結局は誰かに助けられて生きているんだと。そして最初に思うのは、ふるさとへの「ありがたいな」っていう感謝の気持ちなんですね。その気持ちを「ふるさと納税制度」という媒体を使ってできるなら、やってもいいかなつて思いました。町にメリットがなければなりません。私はここで生まれ育つたわけではありませんが、長く暮らしていますし、家族や子どももお世話になっています。こんな山奥まで除雪に入ってくれるだけ感謝なんです。保育料も無料

うんです。金銭的に裕福だというのではなくて、心が豊かというか。私の場合は、人とのつながりで、白糠町に来ましたけど、それを決めるのも長谷川君しだいなんですね。

全日本毛刈り選手権大会「ジャパンシェアーズ」

羊の毛刈り日本一を決める大会があります。昨年は新型コロナウイルスによる影響で中止になりましたが、今年は5月15日(土)と16日(日)に、新得町の「ヨークシャーファーム」で開催されました。

ジャパンシェアーズとは、ニュージーランドでプロのシェアラー(毛刈り職人)として活躍している大石隼君という方がはじめた羊の毛刈りの大会です。

大石君は、毛刈りの世界大会に日本代表として何度も出場経験がある方です。羊の毛刈り大会は、世界ではスポーツとして捉えられています。オリンピック種目の候補にもなるような、厳密なルールがあり、世界大会に出場するような一流の毛刈り職人は、サインを求められたりするスポーツのスタ